

実践研究課題：高等学校における家庭科授業研究

和歌山大学教育学部 今村 律子(研究代表) 村田 順子 山本 奈美
県立熊野高等学校 上村 桂 池田 香織
海南市立海南下津高等学校 尾崎 京子 川南ゆかり 松浦真理子
大阪府立岬高等学校 宮武 千波

1. はじめに

高等学校家庭科教員と学部家庭科教育専攻教員の授業研究や情報交換を行う場を構築することを目指し、連携を継続的に取り組んできている。今年度は昨年度に引き続き、コロナ渦の影響や各連携校の状況もあり、連携が困難となった面もあり、最低限の活動であったかもしれない。本報では、本年度の活動内容について報告する。

2. 活動報告

(1) Kumano サポーターズリーダー部と学校家庭クラブ全国大会(県立熊野高等学校)

昨年度の学校家庭クラブ全国大会でオンライン開催された「AED 用プライバシー保護シートの開発」を発展的にすすめることを前提に活動内容について当初具体的に次のような提案があった。型紙の変更等、共同ですすめられる部分も検討されていたが、実際には実現しなかった。

- ◆ 9月下旬 デザインパテントコンテスト(主催:文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館)応募したが、結果予選通過ならず。
- ◆ 7月28日 AEDの設置情報をオープンデータで公開する活動を実施。住所や位置情報(緯度経度)、利用できる曜日や時間帯をGoogleのスプレッドシートにまとめCSV形式で出力し、ホームページで公開する。ホームページでは、一覧表示とマップでの表示切り替えができ、地域や曜日で絞り込むことができる。今後は、同部が開発、製作しているAEDシートの設置と合わせてエリアを拡大し、AEDが必要な時に1分1秒でも早く利用できるような環境にするため、オープンデータを持って、さまざまアイデアソンに参加し協力を呼びかけたい。
- ◆ 8月 防災テーマ学習は顧問のみの参加
- ◆ 11月21日 上富田合同防災訓練で展示

(2) 本物を体験する授業(府立岬高等学校)

高校生にできるだけ本物を体験する授業を計画したいという担当教員の考えから、1学期(5月25日)に打ち合わせを和歌山大学で実施した。昨年度も貸し出した高齢者体験セットを用いた授業(昨年度の本報告書参照)の他、養蚕や綿の栽培を授業に採り入れたいとの提案があった。カイコの飼育や綿の栽培は教材会社のカタログから購入できるものである。栽培や飼育は天候の影響や継続的な生き物の世話など困難が伴う。当日の打ち合わせで、以前農業担当の小林教授から預かった綿花を一袋提供した。綿花を用いて、紡績体験なども検討するということがあった。

報告書を作成する時期となった現在、検討のみで終わってしまった感はある。

(3) 授業参観および研究協議(海南市立海南下津高等学校)

本年度の進め方は、夏休み中(8月27日)に連携校を訪問し、共同研究者3人と話し合いの場を持って決定した。コロナ渦により、調理実習の実施が困難な状況下、体験や実習をとり入れ、基礎学力を付けていくための授業を検討すること、そして研究代表者の専門性を考慮し、衣生活の内容を取り上げることで了承された。衣生活の授業内容については、以前から連携事業によって西岡先生と共

同開発している複数の教材について、こちらから資料をもとに紹介した。その後、衣生活（被服を管理する）の授業が提案され、参観およびその後の研究協議を実施した。

① 参観授業

家庭基礎：被服を管理する（アイロンのかけ方）

授業日：10月27日（水）5限

学年・組：1年A組（女子11人）

アイロンかけが、かけ方のみを学習する「how to」型授業にならないよう、かけ方の動画などを用いて科学的な知識習得と実習の両方が実践できるように考えた授業をもとに、近年のICT活用を十分採り入れた授業が考えられていた。例えば、ワークシートをプロジェクターで前に映し、生徒がワークシート内に記載すべき内容を即時に画面にも入力し、解答が間違っていないか生徒自身が確認できるようにされていた。またアイロンかけの動画に文字を入力し、学習ポイントが確認できるような工夫も見られた。

アイロンかけの体験がある生徒と全くない生徒がおり、アイロンかけをしたことがない場合はアイロンの持ち方や手の動かし方など、非常に基本的なことから生徒に指導する必要があることがわかった。アイロンをかける部位に応じて、左右両手を使い分けることは初心者には困難であった。どの技能レベルを基準として、指導内容を決めるかは体験レベル別に前もって検討し、マニュアルを作成することによって、家庭科の経験年数や専門性の少ない教員が授業時に対応しやすくてできるであろう。また、下記写真のように、アイロンの持ち方だけでなく、アイロン台にどのように衣服を置いてアイロンをかけると上手くかけることができるか、効率よく作業できるかなど教師の声かけ内容は多岐にわたることが確認された。



写真 袖部分をどのようにアイロン台に置くかの違い

教科の垣根を超えて公開授業参観が実施されているため、研究協議の場においても家庭科以外の教員の意見を聴くことができる点は見習いたいことである。アイロンという家庭電化製品の扱い方や用語の使い方など、教科内では見過ごしがちな内容が指摘されることは授業者にとってもブラッシュアップにつながることである。

本授業において、アイロンかけの布として用いたワイシャツは、衣服各部位の名称を前もって確認するところからワークシートに記載されており、その内容から授業で扱われる。しかし、すべての部位名称を確認するわけではないので、実習中にはワークシートで扱った名称以外にも指導時に必要となった。その点は生徒に理解しづらい場面であったようである。これは、和大学生にも共通することである。大学生の場合も、前立てや見返し、袖下など様々な用語が実習時に必要となるが、知識レベルは学生によって様々である。実習に必要な衣服各部位の名称については、家庭科教員を目指す学生に知識定着がなされるよう指導方法を工夫する必要があると思った。

3. おわりに

すべての連携校と十分な連携共同研究が実施できていないが、これらの連携が学校現場への貢献と共に学部での授業改善にもつながることを再認識した。